和光市教育振興基本計画　中間評価シート

基本施策９	歴史的文化資源の保存・活用と創造的な文化の振興
市民の貴重な財産である文化財や郷土の歴史を後世に伝えていくとともに、市民が郷土に愛着を持てるようにします。また、文化活動を行う市民の自主性が尊重され、創造的な文化活動を活性化します。	

■現状と課題

市内には、多様な歴史的文化資源があるものの、広く市民に認知されておらず、より多くの人に認知されるような取組が必要です。
市内の貴重な出土遺物、民具、古文書等を適切に保管し、学校教育や生涯学習などに積極的に活用・公開できる収蔵場所の確保が課題となっています。
地域における伝統文化を未来に継承する担い手を社会全体に広げていくため、その魅力を発信し、学ぶ機会を拡大していく必要があります。
広く文化に触れる機会を市民文化センターなどにおいて提供していますが、更に、市民の自主的な文化活動を促進させていくことが求められています。
学校や地域において、子供たちの文化芸術に触れる機会を充実させることは、豊かな感性や創造性を育むことにもつながります。
障害者が自らの可能性を追求しつつ、豊かな人生を送ることができるよう、障害者の文化芸術活動を支援する必要があります。

■指標（計画策定時）

①故郷としての愛着度

令和2年度（現状値） 44.0%　➡ 令和7年度(目標値） 70.0%

【定義】和光市教育に関するアンケートにおける「和光市についてふるさととしての愛着を感じている」の割合

【目標値】故郷としての愛着度については既に約4割が愛着を感じていることから、「どちらとも言えない」と回答した人の割合を加え、約7割の愛着度を目指す。

②国・県・市指定文化財件数

令和2年度（現状値） 16件　➡ 令和7年度(目標値） 20件

【定義】第五次総合振興計画アンケートにおける「一人ひとりが個性と能力を発揮できる社会づくりを進める」で「満足」「まあ満足」と回答した割合

【目標値】現状の満足度が約2 割であることから、今後は「どちらとも言えない」と回答した人の半数値を満足度に加え、約5 割の満足度を目指す。

③文化活動への満足度

令和2年度（現状値） 27.4%　➡ 令和7年度(目標値） 50.0%

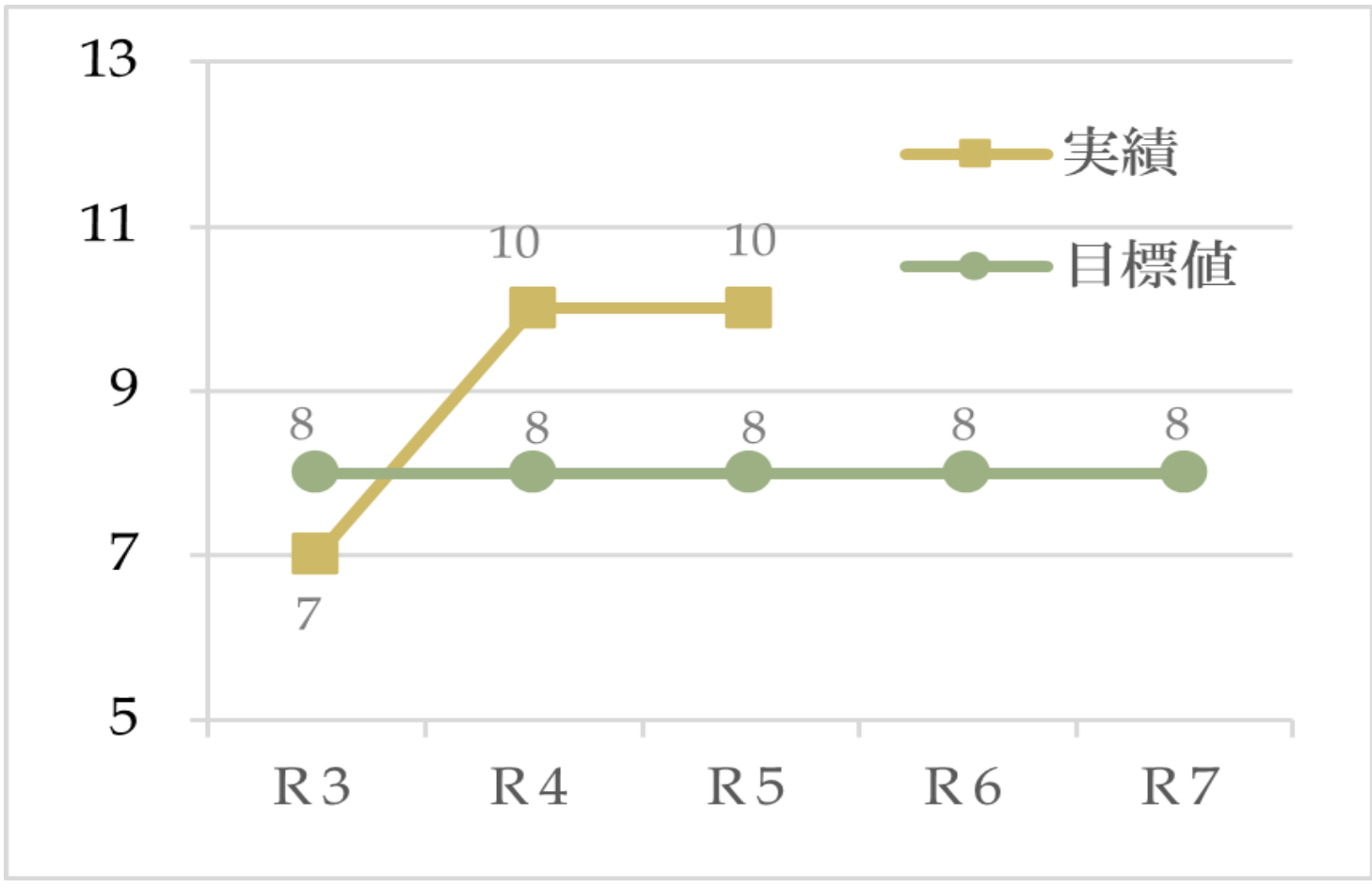
【定義】第五次総合振興計画アンケートにおける「市民の文化活動の支援などをし、創造的な文化活動を活発にする」で「満足」「まあ満足」と回答した割合

【目標値】現状の満足度が約3 割であることから、今後は「どちらとも言えない」と回答した人の半数値を満足度に加え、約5 割の満足度を目指す。

■令和3年度～5年度の指標及び結果

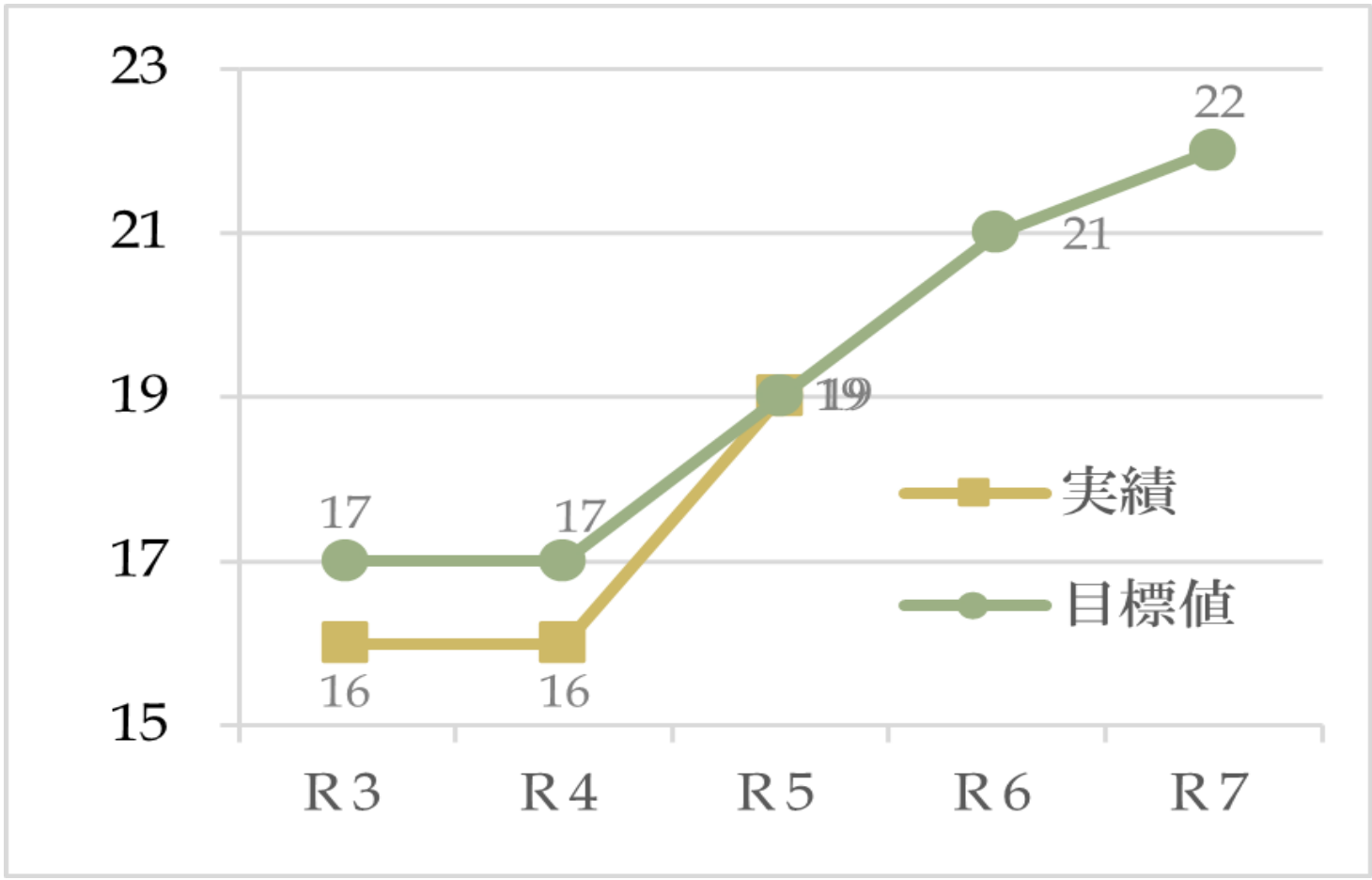
①文化財関係講座・見学会等件数（出前講座等含む）

発掘現場公開や、文化財に関する講座の実施件数



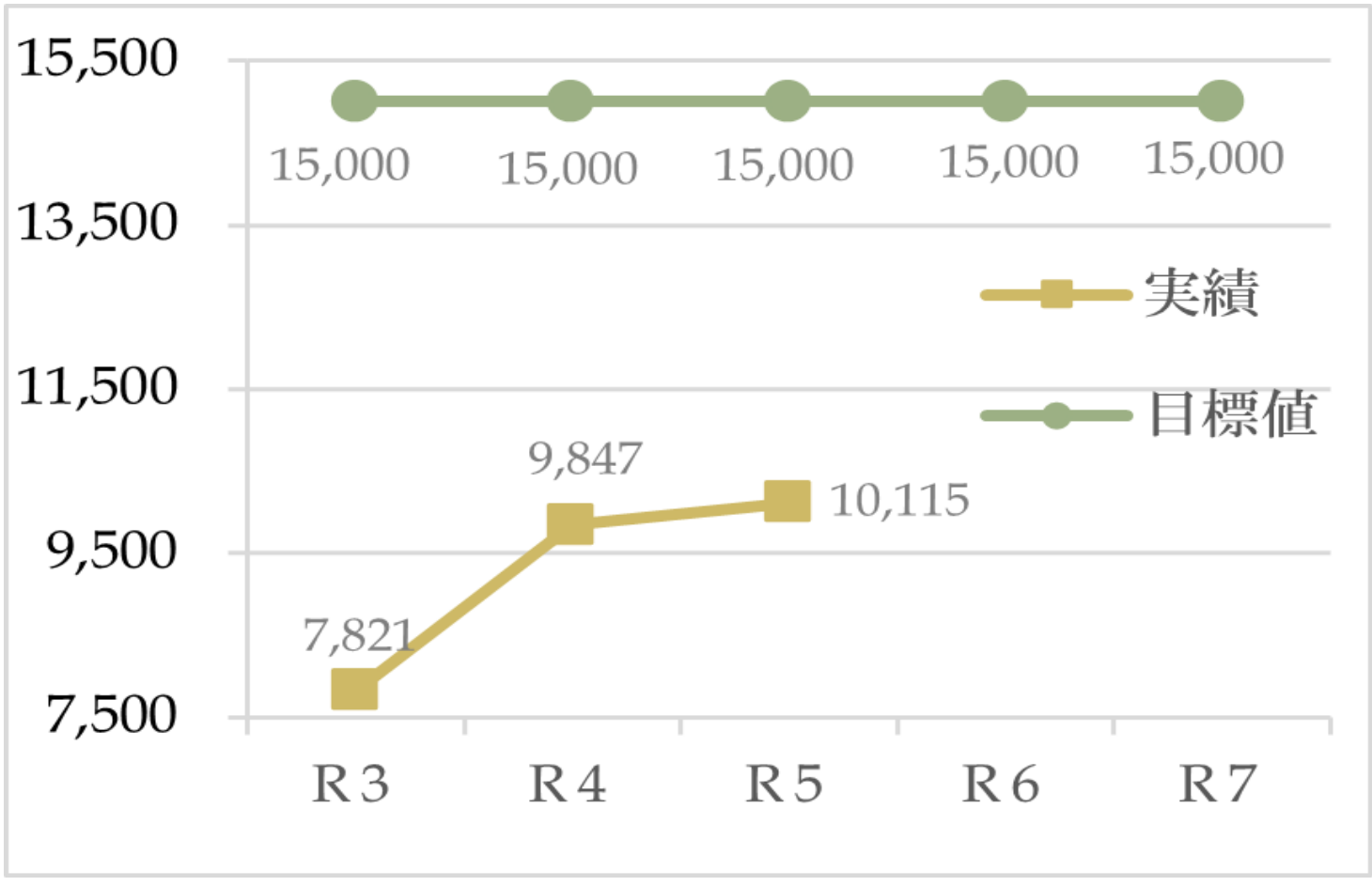
②国・県・市指定文化財件数

保護・保存が必要な文化財として理解されている実数



③新倉ふるさと民家園の来園者数

新倉ふるさと民家園の来園者の総数



■主な取組

施策1	歴史的文化資源の保存・活用
施策概要	・弥生時代の貴重な環濠集落として国指定史跡となった午王山遺跡の保存・活用を推進するとともに、近隣のまちづくりと連携し、市民が遺跡について学ぶことのできる環境を整えます。 ・市民の歴史学習として保存庫に収蔵する文化財を「観る」「触れる」「使う」など効果的に活用し、文化財に対する意識の醸成を図ります。 ・遺物等の整理・保存のための歴史資料室を、市民の学びの場の1つとして開放し、学芸員等と歴史観を共有できるようにします。
具体的な事業・取組等	・史跡の指定を進め、公有地化も実施した。さらに暫定整備としての看板の設置や「午王山だより」を発行した。また、令和5年10月に3週間程度の午王山遺跡展を実施し延べ5,418人の来場があった。さらに展示期間中に記念講演会及び関連講座を行い人合わせて233人が参加した。 ・発掘現場公開、遺跡展、文化財に関するおどけ講座を実施。広報に年4回「和光市の歴史民俗を訪ねて」というコーナーを掲載している。また、地元ラジオやケーブルテレビ、新聞などで文化財についての情報を発信した。
自己評価	・史跡の指定や公有地化については、地権者の方との交渉を継続することで順調に進めることができている。活用についても文化庁と協議しながら継続しておこなっていく。 ・文化財に関する講座の実施やメディアでの情報発信などで、文化財に対する意識の醸成が図れているため、今後も継続して行っていく。

施策２	**歴史的文化資源の魅力発信と学ぶ機会の充実**
施策概要	・郷土資料館をもたない本市において、デジタルミュージアムは市民の歴史学習を支援する有効なツールであることから、内容を充実させることにより、学校における地域学習に効果的に活用します。 ・和光市史平成版を編さんし、ホームページ上に掲載することにより、誰もが郷土の歴史を身近に感じることができるよう推進します。
具体的な事業・取組等	・デジタルミュージアムに文化財に関する情報や紀要を掲載した。 ・令和５年３月に刊行した市史を活用した歴史講座を３回実施、また刊行周知の一環として、庁舎１階で１週間程度、簡易な紹介コーナーを設置した。
自己評価	・文化財事業の発信ツールとして活用できている。今後も継続して内容の充実を図っていく。 ・市史を活用した事業展開ができた。今後も継続して市の魅力発信や歴史を学ぶツールとして活用していく。

施策３	**地域における伝統文化の継承**
施策概要	・地域における伝統文化を未来に継承するため、市指定無形文化財をはじめとした伝統文化の担い手育成について積極的に取り組みます。 ・新倉ふるさと民家園で取り組まれる本市に昔から残る季節折々の行事は、市民に郷土愛を醸成していく機会となることから、積極的に発信していきます。 ・市民と行政の協働のモデルともなる新倉ふるさと民家園古民家愛好会との活動が、より円滑に推進できるよう努めます。
具体的な事業・取組等	・市の指定文化財である、ささら獅子舞、白子囃しに補助金の交付による会の活動の維持を支援。また、学校での演奏や講座等の開催にあたり協力をした。令和5年度は白子囃子保存会は9月～11月の期間で後継者育成講座を開催。 ささら獅子舞は市内の小学校で複数回の講座を実施した。 ・新倉ふるさと民家園では市民との協働により、通年で伝統行事や季節行事を実施している。
自己評価	・各保存会と協働で事業を実施している。後継者の育成は進んでいるが、引き続き努めていく必要がある。 ・新倉ふるさと民家園での年中行事は順調に実施できている。開園から17年経過しており、突発的な不具合も発生し、対処療法的な処置を行っている状況であるので、今後は管理団体と調整をしながら計画的な修繕を行う必要がある。

※施策4は市民文化センター管理運営等の文化事業（企画人権課が所管）のため対象外

施策５	**自主的で創造的な文化活動の支援**
施策概要	・あらゆる世代に対して文化に触れる機会を提供するとともに、文化団体間交流などを推進します。 ・多種多様な文化活動、発表及び創作の場の充実を図ります。
具体的な事業・取組等	・市民まつりや、公民館のまつり、サークル体験フェスタにおいて文化に触れる機会を提供した ・市民まつりや、公民館のまつり、サークル体験フェスタといった発表の場を企画した。
自己評価	・今後も継続して実施する

■社会教育委員の意見・提言　　［評価者：　　］

-
-
-
-

■今後の取組

□ このまま継続にむけて検討　□ 改善して継続を検討　□ 事業の大幅な見直しを検討

■用語解説

【環濠集落】
　環濠集落は一般的には周囲に濠を巡らせた集落のことを指し、集落の規模は約250×250m、濠の幅は容易には渡れない約6～8mが標準。内部には20～30戸の家屋が建ち並び、中心に寺や神社を有することもあります。一般的に濠の目的は、自衛のための防御機能だと考えられています。